

地域の人に見守ってもらった夏休み

「学力をつけよう！なんぶっ子夏休み塾」を開催しました。

夏休み中も学習の時間を確保し、規律ある生活をするため、町内3会場で「学力をつけよう！なんぶっ子夏休み塾」を開催しました。

小学校は2会場で低・中・高学年別に10日間ずつ、中学校は3年生を対象に8日間行い、地域の大人や高校生にボランティアとして見守ってもらい、自主学習に取り組みました。



地域の人に見守られて

高校生ボランティアも大活躍



受験生は真剣そのもの

参加した子どもは「家でするより、いろいろな人にはげましてもらって、夏休みの宿題がはかどった。それに楽しかった」と感想を話していました。

「夏休みお楽しみ教室」も大盛況!

大盛況!

今年度も、西伯文化会館を会場にして、「お楽しみ教室」が開催され、町内の小学生約150人が、陶芸(指導・安藤真澄さん)、水彩画(加藤哲英さん)、ビーズアクセサリー(「七人の小人」さん)、ポセラーツ(大野恵美子さん)、折り紙(榎原富子さん)、フェルト工作(「ノームの糸車」さん)の作品作りに取り組みました。指導は、すべて地域の人です。なかには、親子で参加し、ものづくりを楽しんでいる姿もありました。



「何を描こうかなあ」

南部中学校が正式に地域協働学校に

正式に地域協働学校に

南部中学校は、平成19・20年度と文部科学省指定のコミュニティ・スクール推進事業に取り組みましたが、9月1日に正式に地域協働学校(コミュニティ・スクール)になりました。

自己有用感や郷土に愛着をもつ生徒を育てるために、「先輩に学ぶ講座」「ボランティア体験」「環境美化活動」など生徒の自主性を大切に活動に応援しています。

昨年度の「先輩に学ぶ」授業のようす



「この子らを世の光に」

人権から考える福祉のはなし

あなたはこの言葉を聞いたことがありますか？

福祉教育では現在も多くの人に受け継がれている

大切な言葉です。

生まれながらに光り輝く

「この子らに世の光を」当てるやろう。「してあげる」というあわれみや政策を求めることではなく一人ひとりの子たちには、自らが輝く何かを持っている存在なのだから、そこに光をあてて、輝かそうという意味の「この子らを世の光に」です。

子どもたちの生まれながらに持っている人格発達の権利を保障し、知的障がい児の入所、教育、医療を行う「近江学園」を創設した糸賀一雄園長の言葉です。人権を尊重する立場から生まれ

自分らしく生きる 共に生きる

「自己実現」とは、それぞれの立場の人が一人の人間として、個人の持つている能力を最大限に生かして自分らしく生きること。

た社会福祉の精神を学ぶ言葉です。多くの大学の先生方が講演や講座で、この精神を伝えていきます。

あなたは、どれでしょう？

人権尊重の精神は、いろいろな立場の人たちの思いで変化します。

「この子らに世の光を」

「この子らを世の光に」

「この子らと世の光に」

にとか、をの助詞が変わるだけでことばの意味合いが、ずいぶん違います。あなたは、どれ…？

世…光といえは…
人の世に熱あれ
人間に光あれ

日本で初めての人権宣言の一節です。

(全国水平社宣言より)

「人権教育」とは…

あらゆる差別の解消は、一人ひとりの意識で解消されていくことを考え、私たちがいろいろの問題に気づき、それを解消しようとする心を育てることで、自分自身が幸せに生きるために必要な教育のことです。

「人権教育・啓発推進法」は…

2001年(平成12年11月)

「人権教育のための国連十年」「地域改善対策協議会意見具申」「人権擁護推進審議会答申」を踏まえ、制定されています。

第二条には、「人権教育とは、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」と記されています。